

令和5年2月定例会

予算決算委員会資料
(消防本部)

消防通信指令システム更新事業について

1 目的

平成28年度に整備した指令システム・消防救急デジタル無線設備について、メインサーバーおよび周辺機器の耐用年数等を勘案し、運用開始から10年が経過する令和8年度に更新運用しようとするものです。

秋田市と管轄人口が同程度（管轄人口25万人から35万人）である33消防本部の平均更新期間は10.5年です。

2 更新による機能強化内容

(1) 操作性の向上

誘導機能（次の操作を誘導する）でヒューマンエラーの防止効果が高まる。

(2) レスポンスタイムの向上

車両運用端末装置のナビゲーション機能および通報位置検索機能強化で道路事情に合わせた最短距離、最短時間で現場到着ができる。

(3) 現場状況把握の効率化

通報者からの映像伝送が可能となり、応急手当等の具体的指示ができることにより効果的な災害現場の状況把握が可能となる。

(4) 通信範囲の拡大

無線移動局の出力向上（2Wから5Wに向上）により通信範囲が拡大される。

3 事業費 総額 2,001,449千円

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	合計
事業費	13,800千円	572,843千円	1,314,806千円	100,000千円	2,001,449千円
特定財源	12,000千円	501,200千円	1,150,400千円	—	1,663,600千円
一般財源	1,800千円	71,643千円	164,406千円	100,000千円	337,849千円

※ 特定財源・指令システム構築部分～712,900千円（防災対策事業債75%、交付税算入率30%）
・無線更新部分～950,700千円（緊急防災減災事業債100%、交付税算入率70%）

4 その他

標準インターフェイスを導入することにより下図のとおり各機器が分割され、複数事業者の参入が期待できる。一方、指令システム、標準インターフェイス、無線設備の保守管理が個別になることにより管理費用の増加も予想される。

総務省消防庁では令和5年度末までに標準インターフェイスについて内容策定することとしているが、現段階ではまだ具体的に示されていない。



A 社指令システム



標準インターフェイス



B 社無線設備

全国救急隊員シンポジウムについて

1 事業目的

「全国救急隊員シンポジウム」とは、一般財団法人救急振興財団と消防本部との共同開催により、日本の救急医療の振興を図るため、全国の救急隊員等を対象とし消防実務の研究発表や最新の医学的知識等を学ぶ場を提供することにより、消防機関が行う救急業務の充実と発展に資するものです。

2 事業内容

(1) 開催日

令和6年11月21日（木）、22日（金）

(2) 開催場所

- ・あきた芸術劇場ミルハス
- ・にぎわい交流館AU
- ・秋田拠点センターアルヴェ

(3) 参加者および参加見込人数

- ・参加者 全国の救急隊員、医師および医療関係者
- ・参加人数 各日約4,000人延べ8,000人の見込み

(4) 開催内容

- ・救急隊員や医師等による救急実務の症例や調査研究発表
- ・医師等による教育講演や救急隊員への技術訓練指導
- ・医師等および救急隊員の公開討論会

(5) 過去の開催状況

平成4年度に宮城県仙台市で開催された第1回大会から今年で31回目を迎え、令和4年度の広島県広島市での開催では2日間で延べ6,092名が参加した。

3 令和5年度の事業内容および事業費

(1) 事業内容

令和6年度に秋田市で開催される第33回全国救急隊員シンポジウムに向けて、事務局員として令和5年度名古屋市開催に伴う会議等に参加し、運営手法を習得する。

(2) 事業費 857千円